

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800022		
法人名	有限会社ふれあい介護サービス		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	茨城県龍ヶ崎市原塚町3605-5		
自己評価作成日	平成24年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.ip/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0890800022-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成25年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの基本理念に基づき、1、明るく楽しく笑顔あふれる新しい第2の我が家を目指します。ご利用者様がご自分のご自宅で生活していた時のように穏やかで安心した日々を送ることが出来るようにお手伝いをさせていただいております。季節を感じる行事や広々とした緑豊かな環境の中で畑仕事やお茶のみをしています。散歩にも出かけて季節の移り変わりを楽しんでいます。2、個性を大切に、常に愛情を持って寄り添い信頼関係を築きます。ご利用者様のお一人お一人の個性を把握しその方のニーズに沿ったケアを日々考えていくように努めています。昼食時には職員も一緒に食事をとり色々な話をして仲の良い人間関係を築けるようにしています。3、地域の皆様とふれあいながら開かれた施設になるように努めます。近所の方々が気軽に遊びに来て下さりお茶飲み話をしていただいております。ホームで孤立することなく、買い物や食事へ外出しています。ホーム主催の納涼祭や、もちつき大会等には近隣の方々を招待させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街中から少し離れた静かな場所にある。門を入ると2匹の犬がフェンスの中から出迎えてくれる。敷地内にはベンチのある中庭があり、天気の良い日は利用者とアニマルセラピーとして飼われている犬が楽しいふれあいの時間を過ごしている。管理者、職員は利用者の気持ちを思いやりながら、理念に基づいたサービスが提供できるようコミュニケーションを取り合っている。利用者一人ひとりの個別の希望に可能な限り対応し、毎日が健やかに過ごせるよう利用者を励ましながら関わる職員の姿勢がある。地域との交流も多く、利用者だけでなく地域の高齢者の集いの場ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修にてスタッフ全員でふれあいの理念を創り上げ、地域の中で共生することを掲げています	玄関とホール2か所に掲示されている。また名札にも携帯し、常に職員全員が確認できるようにしている。新人職員の研修時には事業所のケアの基本として説明し、カンファレンス時にも皆で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けて地域の方にお会いする時にはご挨拶をして、ホームに気軽に遊びに来て下さるようにお声を掛けて頂いております。お花やお野菜を持って遊びに来て下さいます。	近所の高齢者が憩いの場として事業所で過ごす機会が多い。利用者に混じってレクを楽しんだり職員と話したりして過ごしている。夏の納涼祭や12月の餅つきには地域住民が100人程参加している。社会福祉協議会主催のジュニアボランティアスクールの受け入れも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からのご相談を受けてお手伝いをさせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お忙しい中ご足労をいただき、貴重なご意見をいただきサービス向上に努めています	職員、民生委員、家族、市の職員、自治会の参加者が中心となり、事業所の行事と合わせながら年6回実施されている。会議では、議題に沿った質疑応答や外部評価の結果報告などが行われている。話し合いを通して、地域と避難訓練の連携も図れるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を受け協力関係を築けるように努めています。	集団指導や実施指導を通じて連携が図られている。拘束についての同意書についての指導、様々な案内の受け取り、また質問対しても市から協力的な対応が得られている。グループホーム協議会に施設長が参加し、市との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内に虐待の防止、早期発見のためのポスターを掲示し理解に取り組んでいます。玄関を開放し、常にご利用者様に寄り添うケアを実践しています。	現在拘束の事例はないが、止むを得ず必要な場合を想定して、原則入所時に家族とは同意書を取り交わしている。日中の玄関施錠はしておらず、利用者は好きな時に出入りが可能である。言葉の虐待についてもその時々で対応について注意し、カンファレンスで職員全体が共有できるよう確認されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、「ダメ、待って」等の言葉の虐待にもチームで防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な方には社会福祉協議会をご案内してお手伝いをさせていただいております。職員には社内研修にて学習会をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分にご理解をいただけるように丁寧な説明を心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見、要望を頂き運営に反映させております。	入所時のアセスメントで要望を聞き取り、それに沿ったケアを行っている。避難場所や受診対応など家族からの何気ない質問や要望に対応し、普段からコミュニケーションが図られている。家族からはお礼を言われることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、気付きノートを活用して職員が気軽に意見を言える環境を整えています。	管理者は普段から職員の疑問や相談を受け止め、アドバイスしながらも共に課題解決のための糸口を探るよう努めている。利用者にはそれぞれ担当職員が配置されており、それぞれが責任を持って情報の収集やケアの評価が行えるような工夫がある。	管理者は職員の休憩や休暇の確保に配慮していることもあり、なかなか研修のための時間確保が難しいが、出来る限り研修参加や他事業所との交流の機会が増えるよう支援し、職員のモチベーションをさらに引き上げて頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修を積極的に行い、個々のスキルアップを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、機会を設けるように努力していきます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり向き合う時間を確保して傾聴を心がけています。寄り添う姿勢を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同様に、お話させていただく機会を頂き傾聴を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される以前の情報をアセスメントして真のニーズ把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にも出来ることはお手伝いをして頂き役割を持って共生することを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事にはご家族様をご招待させて頂きご利用者様との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されても出来る限り関係が継続できるように個別レクリエーションを充実させて支援を行っております。	地域密着型の施設であるため、元々馴染みの関係である利用者もいる。利用者の個別のニーズに応える職員の時間を確保し、1人ずつ要望を聞きながら買い物支援をしたり、初詣に行ったり、元の友人を訪ねたりなどの機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	ご利用者様同士が交流を深められるように職員が お手伝いをさせていただいております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	ご要望に沿う形でお手伝いをさせていただいて おります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様の担当職員を配置して、よりきめ細 かい気付きをあげて適切なケアが迅速に行えるよ うに努めています。	職員は出勤後すぐに担当利用者の部屋をチェッ クするなど、常に利用者の様子や気持ちを把握 できるよう対応している。また、日々の様子や 状態、気づきを個別ケアシートに記載し、他 の職員が利用者の状態を把握できるよう活 かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人様、ご家族様からのヒアリングに重 点を置き、ケアマネージャー、ソーシャル ワーカーと連携を取り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様の担当職員を配置して、よりき め細かい気付きをあげて適切なケアが迅速 に行えるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで介護計画の素案を作成し、 ご家族様のご意見をお聞きしてチームで取 り組む介護計画を作成しております。	介護計画は受診の結果も把握しながら作成 されている。個別シートを参考にしながら、 通常半月ごとに課題評価に基づいたカンファ レンスシートを担当者が記入しており、利用 者の状態の変化を把握し、常に職員が共有 できるよう工夫されている。モニタリングは 半年に一度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	日々の記録、個別ケアシートを活用して見 直しをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念にとらわれずに柔軟な対応が出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来るように情報収集して支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでの様子を報告させて頂き、適切な医療を受けられるように支援をさせていただいております。	必要に応じて他の医療機関を受診する利用者もいるが、大半の利用者が基本的に事業所提携医の往診で受診している。受診の結果は月に1回の面会時に受診記録を提示しながら家族へ報告されている。夜間急変の場合も、いつでも提携医と連絡し、相談、往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでの様子を報告させて頂き、適切な医療を受けられるように支援をさせていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、関係者の方々と連携を取ることが出来るように関係作りを行っていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と密に連絡を取り方針を共有してチームで支援が出来るように取り組んでいきます。	職員への研修やメンタルケアなど、看取りのための体制がまだ整っていないため、具体的な方針は決まっていない。事業所の現状を家族に伝え話し合いながら、個々の利用者に対してどこまで支援出来るか検討している。	職員研修等を通して事業所としてどこまで出来るかを検討し、体制を整えていこう取り組んでいってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、実践力を身に付けられるように取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にご協力をいただき、避難訓練を定期的に行っております。	自治会長が事業所の避難訓練に参加している。日ごろからほぼ毎日、利用者が屋外で過ごす時間を作っており、利用者も抵抗なく訓練に参加できている。水、米、レトルトスープなどの備蓄品を用意している。夜間を想定した訓練も4月に予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の重要性を理解して、常に念頭においてケアに努めております。	利用者に対する言葉遣いが丁寧である。記録物は事務所に保管し、事務所は必要に応じて施錠されている。写真の利用は範囲を限定し、必要以上に家族以外の人目に触れることはない。トイレ使用時なども利用者の人格や誇りが守られるようなケアが心がけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が感情の表出が出来るように、日頃から信頼関係の構築に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない、ご利用者様主体のケアが出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに沿ったお手伝いをさせていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好の把握に努めています。食事の準備、調理などを一緒に行っております。	ご近所から頂く野菜をふんだんに利用した手作りの食事が出されている。メニューは原則職員が作っているが、利用者にも希望を聞きカレーやスパゲティなどもリクエストメニューとして提供している。野菜洗いや刻み、片付けを行う利用者もいる。月に1回程、初詣などの外出時には外食の機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事の摂取量、水分摂取量を記録して、個別の対応が出来るように支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握して、ご利用者様の自立に向けた支援を行っております。	日々の排泄チェックや水分摂取量等を参考にし、声掛けや誘導をしながら自立を促している。夜間についてはポータブルトイレも利用し、出来るだけ自立できるような支援が行われている。1日のリズムが整うように外気浴を日課にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修において便秘に対する理解を深め、排泄チェック表を活用し個別に適切な支援が行えるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の決まった時間に行っているのが現状です。個々の要望に沿った支援の重要性については職員が理解できるようにしております。	原則3日に1回の入浴支援となっている。ゆず湯などで気分を和らげる工夫もしている。利用者が抵抗なく入浴が楽しめるように介助者を同性にするなどの配慮もあり、その必要性も確認しながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に沿ったお手伝いをさせていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性について研修を行っております。与薬にはミスがないように与薬チェック表を作成してチームで確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、ご家族様、御友人様から生活歴をお聞きして活気のある生活を支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望に沿う形で個別レクリエーションを充実させお手伝いをさせていただいております。	天気の良い日は中庭にて外気浴を行い、アニマルセラピーを行いながら30分ほど過ごす時間を設けている。また利用者の希望により散歩や買い物、実家への帰宅などの外出の支援を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望のご利用者様には外出をして買い物などを楽しんで頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、なじみの関係が継続できるように支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安心できる環境を保てるように配慮しております。季節感を取り入れた飾り物や掲示物の作成をご利用様と行っております。	玄関付近等に家族から寄贈された段飾りのひな人形などが飾られており、温かみを感じられた。ユニットの廊下の壁には利用者の作品が貼られている。加湿器や感染予防の対策など家庭的な中でも安全に過ごせるような配慮もされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろげる環境や、ホールにソファを配置してゆったりできる空間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には、御自宅で使用していた馴染みの家具などをお持ちいただき居心地の良い居室になるようにしております。	テレビや仏壇、使い込まれた戸棚などが配置されていた。冷蔵庫は持ち込まないよう説明されている。家族の写真も貼られており、利用者が居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の有する能力を最大限生かして、自立した生活が送れるようお手伝いをさせていただいております。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームふれあい

目標達成計画

作成日:平成25年5月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の外部研修を確保できていない	職員が外部研修に参加できる体制作りをする	研修の情報を収集し職員へ周知し、参加を募る 研修時間を確保して参加できる体制作りをする	6ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に対して、具体的な方針を取りきめていない	職員研修や外部研修を通じて重度化や終末期に向けた具体的な方針を取りきめる	1、重度化や終末期に向けた方針の情報を収集する 2、運営推進会議にて意見や要望をお伺いする 3、基本方針を作成する 4、社内研修にて基本方針について勉強会を開く	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。